

# 調査報告書

令和5年7月14日

袖ヶ浦市議会議長 榎本 雅司 様

議会運営委員会  
委員長 在原 直樹  
議会広報特別委員会  
委員長 山下 信司

会議規則第106条の規定による調査のため、視察したところ、概要は下記のとおりでしたので、報告いたします。

## 記

- 1 期 日 令和5年7月6日（木）～7月7日（金）
- 2 場所・目的
  - (1) 第1日 天童市議会
    - ・議員定数及び議員報酬の見直しについて
  - (2) 第2日 川西町議会
    - ・かわにし議会だよりの発行について
- 3 参加者 13人（議会運営委員・議会広報特別委員11人、事務局2人）
- 4 概要 別紙のとおり

## 視 察 概 要

### 1 天童市議会

#### 「議員定数及び議員報酬の見直しについて」

説明者 天童市議会 村山議長  
天童市議会事務局、今田局長、村山局長補佐

#### ◇概要

天童市は山形県中央東部に位置。山形市のベッドタウンでもあり、山形・仙台両市へのアクセスがよく山形空港も近い立地から先端技術産業が集積している。農業産出額は県内有数で、特にサクランボや西洋梨は全国トップクラス。駒の生産量日本一でタイトル戦が実施される「将棋のまち」。

面積 113.02km<sup>2</sup>

人口 61,496人

天童市議会より、議員定数及び議員報酬の見直しの検討経過等について伺った。天童市議会では、令和2年12月に議員定数・議員報酬検討特別委員会を設置し、議員アンケートや市民への議会報告・意見交換会等を経て、議員定数を1名削減、議員報酬を2万7千円増額とする見直しを行っている。

#### ◇視察内容

○議員定数及び議員報酬の見直しについて（議会事務局 村山局長補佐）

令和元年9月の市議会議員選挙では、告示日直前まで無投票となる可能性が懸念される状況となり、議員のなり手不足等の課題が浮き彫りとなった。このような議会を取り巻く環境等を踏まえながら、議会に求められる役割と責任を果たしていくため、今後の議員定数及び議員報酬の在り方を改めて検討すべきという観点から、令和2年12月に、議員定数・議員報酬検討特別委員会を設置し、アンケートや議会報告・意見交換会などで市民の意見を伺いながら、21回にわたり委員会を開催し検討を行った。

これらの議論を踏まえ、令和4年6月議会の最終日に、議員の定数については1名削減の21名に、報酬については2万7,000円増額の42万円にすべきとの内容で、委員長から最終報告を行った。

最終報告を踏まえ、令和4年9月定例会において天童市議会議員定数条例の一部改正（22名→21名）を議決した。また、特別職等の報酬審議会での審議をへて令和5年3月定例会において天童市特別職に属する者の給与に関する条例の一部改正（議員報酬39万3千円→42万円等）が議決され、いずれも令和5年9月の市議会議員選挙後から適用されることとなった。

### ◇感想

天童市の議員のなり手が時代とともに変わり、今の形に合うように見直されていた。議会改革を通じて検討特別委員会で幾度も議論し、苦勞されていたことがわかった。

各地区への意見交換会で、議員全員が手分けして市民に説明されていたことは、議会への認知度や議員が何をしている人なのか、理解の向上に繋がったのではないかと。

### <主な質疑応答>

袖 検討の過程の中で、市民との意見交換会を多く開催しているが、その内容について伺いたい。

天 平成26年3月に議会基本条例を策定し、その後毎年議会報告会を開催している。定数及び報酬の見直しの検討に当たっては、通常議会報告会の中で特別にテーマを設けて意見を伺った。

議会報告会は4班体制に議員を分けて、12の地区で原則平日の夜に開催している。班分けについては、議員の居住地や期数、所属委員会等を考慮しバランスよく分けている。

袖 市民からの議員定数が多いという意見にはどのような要因があるかと考えるか。

天 市民の感覚で言えば、地元の議員以外は普段どのような活動を行っているかが見えにくいのが理由としてあると思う。そのため、議員からの情報発信が大切。定数の見直しについては近隣市や類似団体と比較はするが、客観的な根拠を示すことは難しく、特別委員会でも1名減の案と3名減の案（3常任委員会から各1名減）で、最後は採決を行った。

袖 市民側の論理と議員側の論理には、立場の違いからギャップが生じる。それをどのように埋めていったのか。

天 答えとなるかはわからないが、定数を大きく減らすと農村地区からはそもそも立候補が難しくなるとの意見もあった。そのような中で、様々な意見を伺い議論を進めてきた。

袖 定数及び報酬の見直し検討の中で、議会事務局はどのようなサポートをおこなったのか。

天 全国市議会議長会の調査結果や、類似団体・近隣市の状況をまとめるなど、検討の材料となる資料の作成、アンケートの作成等を行った。

袖 定数及び報酬については、市民や議員に様々な意見がある。実際に見直しを行い、今後の選挙で候補者が増える見込みはあるのか。

天 令和5年9月に市議会議員選挙が予定されているが、状況はまだわからない。ただし、実際に定数を削減したことで、市民から更なる削減を求める意見は少なくなったように感じる。

袖 報酬の見直しについては、参考とした近隣市等があったのか。

天 報酬についても、具体的な根拠を示すことは難しいが、本市よりも人口の多い近隣市を超えないようにという配慮があった。報酬については、最終的には報酬審議会で審議をいただく形になるので、そちらを尊重しなければならない。

◇視察風景







## 2 川西町議会

### 「かわにし議会だよりの発行について」

説明者 川西町議会 広聴広報常任委員会委員 6名  
橋本委員長、茂木副委員長、鈴木委員、伊藤委員、遠藤委員、  
寒河江委員  
川西町議会事務局 緒形局長補佐

#### ◇概要

川西町は山形県の南部、米沢盆地の中心に位置。稲作と米沢牛の産地で繁殖牛飼育は県内随一。酒造も盛ん。

面積 166.60km<sup>2</sup>

人口 14,360人

川西町議会より、町村議会広報全国コンクールで13年連続入賞している「かわにし議会だよりの発行体制等について伺った。

#### ◇視察内容

○かわにし議会だよりの発行について（広報広聴常任委員会 橋本委員長）

かわにし議会だよりは、町内の全世帯に配布するため5,000部を年4回発行している。発行時期は、定例会の翌月の15日に町報と同じタイミングで発行し、自治会を通じて配布している。

発行予算は年間で約250万円。A4判で16～36ページ程度としている。

かわにし議会だよりは、昭和60年の創刊当時から記事作成、取材・編集、校正等をすべて議員が行うこととしており、事務局は委員会の開催準備のみで編集作業にはかかわらない。

編集手順としては、定例会会期中から会期終了後に、通常5回程度委員会を開催する（例：3月定例会の場合、3/1、3/22、3/28、4/4、4/10）。1回目の委員会で、レイアウト（委員長作成）決めと、編集事務の分担を行う。6名の委員で分担するので、一人当たり3～6ページ程度担当することになる。記事中で使用する用語については、記者ハンドブック等を確認している。

初稿入稿が定例会終了直後のケースが多く、定例会中に議案審議と並行して広報の記事作成や取材、原稿作成依頼を行う。定例会終了後にアドバイザーを含む文書・写真の校正、最後の委員会では委員自らが印刷業者で最終校正を行う。

発行体制としては、委員6名のほか、広報モニター（町民8名の方に依頼、議会だよりへのご意見をいただく）、広報アドバイザー（写真の愛好者や元議員の方等から校正のアドバイスをいただく）等の協力を得ている。また、13名の議員全員による広報懇談会を組織し、毎月の会費徴収により編集作業の支援をいただいている。

#### ◇感想

編集に当っては議会事務局の手助けを借りずに委員全員が担当した部分を責任もって行っているとのことで苦勞されているのが理解できた。

委員のほかに協力してくれるアドバイザー等が校正のアドバイスに携わっているとのことで委員外の協力体制が強固になっているのが感じられた。

13名の議員全員による協力で広報編集作業を支援して頂いているとのことで、委員外議員の協力体制がしっかりしていると感じられた。

#### <主な質疑応答>

袖 タイトルや文章の作成、編集について気を付けていることは。

川 できる限りわかりやすく平易な文章を心掛けている。記事内容を読みたくなるような見出しの作成にも留意している。

袖 記事作成、編集、校正まで議員中心で行うことは苦勞が多いと思うが。

川 最初に議員になったときは、ここまで議員がやるのかと驚いた。ベテランの議員からのアドバイスや委員長がレイアウトを作成してくれるので助かっている。

川 一人の委員の担当は6ページ程度で、1ページは800字程度。苦勞もあるが楽しみながら作成するよう心掛けている。

川 取材に行っても声をかけても断られてしまうことも多いが、町民は自分や友人・知人が掲載された号は必ず読んでくれる。そうした町民の声を励みにしている。

袖 町の広報紙との役割分担で意識していることは。

川 特別にはない。表紙やグラフ等が重なることもとあるが、議会の取り組みや審議の過程がよくわかる内容にしたいと考えている。

袖 シリーズ広聴のインタビュー記事の取材対象者はどのように選定しているか。

川 議員各自がアンテナを張り、町民の活躍等から取材先を探し交渉している。公平性の確保は課題だが、地域の方たちの活躍を紹介していきたい。



◇視察風景



